

北海道産学官研究フォーラム／北海道 GIS・GPS 研究会 2010 年度事業計画案

【全体概要】

グローバルな経済危機の最中であって、昨年総選挙後の政権交代から半年、鳩山政権は様々な問題を内包し、支持率も 30%を切るなど危険水域に達しつつあります。こうした不安定な政局の中で、持続可能な国の成長戦略についても財源の問題があり、特に地方の中小零細企業にとって、大きな試練の時を迎えております。

北海道産学官研究フォーラムは、設立 20 年を目前に控えて内外情勢が激変する中、益々その存在意義が問われつつあります。昨年は、北海道開発問題戦略について道内外の有識者を迎えて様々な提言をいただき、現在そのエッセンスをレポートにまとめるべく準備をするとともに関連組織の北海道航空・港湾研究会を母体とした新たな組織の設立に向けても準備を進めております。

橋本先生が語られているように産学官共通の目的を設定する機会は少ないですが、これまで 10 年 GIS・GPS 研究会として活動してきた地理空間情報分野において、ようやくその萌芽が現れつつあります。2010 年度は、その萌芽を持続可能な地域自立戦略に役立て、北海道経済の飛躍に向けて焦点を絞った活動として展開していきたいと思っております。

I・各部会の活動

① 経営情報部会（下川 哲央氏）

MBA 的な手法を取り入れて、小樽商科大学の先生方や北大経済学の先生方にワークショップやセミナーの講師をお願いし、継続して活動を行う。複雑系のマネジメントなど今の時代が求めるマネジメント手法について学ぶ。

② 農業・食産業部会（太田原 高昭氏）

今年度は、リモートセンシングなどの地理空間情報を活用した農業分野や生命科学分野について、酪農学園や北大の講師を迎えて、セミナーを開催する。

③ 地域環境部会（山村 悦夫氏）

北大のサステナビリティウィークの関連行事を本年も、北海道 GIS・GPS 研究会として行うとともに、低炭素社会実現に向けた技術革新、ビジネス分野での動向など幅広く講師を選んでセミナー等も開催していく。

II・北海道 GIS・GPS 研究会の活動

これまで研究グループリーダーであった北大大学院文学研究科の橋本雄一先生に副会長に就任していただき研究会活動を推進していただくとともに、本年は小樽商大の深田秀実先生にも主に自治体のプロジェクトマネジメントに関するプロジェクトを推進していただきます。2010年1月に開催された国土計画局主催の人材育成プログラムにおいて、講師を勤められた橋本先生、深田先生を中心として、当日参加された恵庭市、北広島市、江別市、札幌市の担当者にも参画していただき、自治体向け GIS のプロジェクトマネジメントの実践的活動を展開していきます。また北大情報科学研究科の金井 理氏を中心としたサイバー・フィールド研究会においても最新動向とともに課題解決に向けて取り組んでまいります。また、クラウド時代の企業 IT 戦略、自治体クラウドの方向性についても検討していきます。

① 行政支援部会（部会長 赤渕 明寛氏）

自治体向けプロジェクトマネジメントの実践活動を会員企業がサポートして、札幌近郊の自治体が抱えている課題解決に向けて、橋本先生、深田先生を中心として活動を展開する。

② ビジネス支援分科会（幹事 今村 樹憲氏）

新しく設立される北海道自立戦略フォーラム（仮称）とも関係しながら、地理空間情報による地域発展戦略シミュレーションについて具体化していく。

④ 防災・環境支援分科会（幹事 志村 一夫氏）

地震・津波・火山などを中心とした防災対策の GIS について、北大理学部の村上亮先生にも協力いただきながら活発に活動していく。

⑤ 農業支援分科会（幹事 寺林 修氏）

北大大学院文学研究科に新たに來られた仁平尊明准教授にも参画いただき、農業分野の GIS について新たな可能性を探る。

⑥ サイバー・フィールド研究会（代表 金井 理氏）

2009年度は、6月にスパークポイントサーチの川村氏、10月には、大阪大学の矢吹教授、12月には鉄道総合技術研究所の篠田氏、本年2月には、ITS Japanの浜田氏を迎えて、それぞれの分野の専門家に最新動向を伺った。本年は、これまでの成果をもとに、産学官連携の具体的な形を追求していく。（精密工学学会とも連携）